

書

つち はし やす こ
土 橋 靖 子
(本名 呉 靖子)



推薦理由

土橋靖子氏は祖父日比野五鳳から書の薫陶を受け、古典古筆を礎に新たな表現を広げ、平成19年には仮名書の新生面を開いたとして芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。そして、独自の風趣や世界観の上に清澄と気品が加味された仮名書を確立。平成30年には日本芸術院賞を受賞。近年は漢字かなのジャンルを超えた「和の書」の創造展開を続けている。又、書道教育にも力を注ぎ、教科書の編集監修をはじめ、これからの人材育成にも尽力するとともに、全国の書道団体の要職を務め書道の振興発展に寄与している。

【略歴】

- 昭和31年 千葉県生まれ
- 昭和45年 日比野五鳳に師事
- 昭和54年 東京学芸大学教育学部特別教科教員養成課程（書道）卒業（同55年同大学教育学部専攻科（書道）修了）
- 昭和60年 日比野光鳳に師事
- 平成15年 現代書道二十人展メンバー（現在まで）
- 平成27年 大東文化大学文学部書道学科特任教授（令和3年まで）
- 令和4年（公社）日本書芸院理事長（現在まで）
- 令和4年（公社）日展理事（現在まで）

【賞歴】

- 平成19年 芸術選奨文部科学大臣新人賞
- 平成28年 日展内閣総理大臣賞
- 平成30年 日本芸術院賞

写真・映像

なか や ふ じ こ
中 谷 芙 二 子



(撮影 越田 乃梨子)

推薦理由

昭和45年の日本万国博覧会での「霧の彫刻」発表以降、シドニー・ビエンナーレ（昭和51年）、水戸芸術館（平成30年 - 同31年）、長野県立美術館など国内外で50年以上にわたり発表し続け、平成21年に文化庁メディア芸術祭功労賞、平成30年に高松宮殿下記念世界文化賞など多くの賞を受賞、平成29年にはフランス芸術文化勲章コマンドゥールを受章し、令和4年に文化功労者となった。人間と環境、自然をテーマとする彼女の作品は、メディア・アートの先駆者としても多くの国内外の美術館で展示されている。

【略歴】

昭和 8年5月15日 北海道生まれ

昭和32年 ノースウエスタン大学美術科卒業

令和 4年 文化功労者

【賞歴】

平成 5年 吉田五十八賞特別賞

平成21年 文化庁メディア芸術祭功労賞

平成28年 円空大賞

平成29年 フランス芸術文化勲章コマンドゥール

平成30年 高松宮殿下記念世界文化賞

令和 2年 文化庁長官表彰

令和 5年 ウルフ賞

小説・戯曲

お がわ よう こ
小 川 洋 子



推薦理由

小川洋子氏は国内外で、現在最も注目されている小説家の一人である。平成3年、「妊娠カレンダー」で芥川龍之介賞を受賞して以来、旺盛な作家活動を展開、「博士の愛した数式」が驚異的なベストセラーとなった。その後、更に小川氏の手から紡ぎ出される小説作品の数々は、円熟度を増し、深化して、高度な文学的達成に成功している。その作品は泉鏡花、内田百閒、川端康成など幻想小説の系譜に連なるものであるが、文体は彫琢された上での平易さを特色とする。新たに日本芸術院会員に迎えるに適しい作家である。

【略歴】

昭和37年3月30日 岡山県生まれ 61歳
昭和59年 早稲田大学第一文学部文芸専修卒業
平成19年 芥川龍之介賞選考委員（現在まで）
平成25年 河合隼雄物語賞選考委員（現在まで）

【賞歴】

昭和63年 海燕新人文学賞
平成3年 芥川龍之介賞
平成16年 読売文学賞・小説賞、本屋大賞、泉鏡花文学賞
平成18年 谷崎潤一郎賞
平成25年 芸術選奨文部科学大臣賞、早稲田大学坪内逍遙大賞
令和2年 野間文芸賞
令和3年 紫綬褒章、菊池寛賞
令和5年 日本芸術院賞

小説・戯曲

つつ い やす たか
筒 井 康 隆



(写真提供 読売新聞社)

推薦理由

筒井康隆氏はSF作家として出発したが、その後、小説ジャンルの様々な可能性を実験的な手法（ユーモア・諧謔性、物語性、言語遊戯と批評性）を駆使して、優れた作品を生み出してきた。それらの作品は多くの熱心な読者を獲得し、今も魅了し続けている。代表作に「虚人たち」（泉鏡花文学賞）、「夢の木坂分岐点」（谷崎潤一郎賞）、ベストセラーの「文学部唯野教授」、「朝のガスパール」（日本SF大賞）、「わたしのグランパ」（読売文学賞・小説賞）などがあり、現在も旺盛な創作活動を続けている。その顕著な業績は、日本芸術院会員に最も適しい作家と言える。

【略歴】

昭和 9年9月24日 大阪府生まれ 89歳

昭和32年 同志社大学文学部卒業

【賞歴】

昭和56年 泉鏡花文学賞

昭和62年 谷崎潤一郎賞

平成 元年 川端康成文学賞

平成 3年 日本文化デザイン賞

平成 4年 日本SF大賞

平成 9年 フランス芸術文化勲章シュヴァリエ

平成12年 読売文学賞・小説賞

平成14年 紫綬褒章

平成22年 菊池寛賞

平成29年 毎日芸術賞・文学1部門

令和 4年 恩賜賞・日本芸術院賞

マンガ

はぎ お も と
萩 尾 望 都



推薦理由

漫画家でありSF作家でもある萩尾望都氏は、昭和44年のデビュー以来、代表作「ポーの一族」「トーマの心臓」や「11人いる!」「半神」といった短編傑作など、幅広い分野にわたるエネルギーで独創的な創作活動を続けており、世代や性別、国境を超えて高く評価されている。令和元年に女性漫画家としては初の文化功労者、令和4年には米・アイズナー賞に選出。テーマや画風、そして独自の世界観において、芸術とマンガを切り結ぶ第一人者であり、漫画文化の発展と未来にとっても非常に心強い存在である。

【略歴】

昭和24年5月12日 福岡県生まれ 74歳

平成23年 女子美術大学芸術学部アート・デザイン表現学科メディア表現領域客員教授（現在まで）

平成26年 （公社）日本漫画家協会参与（令和2年理事、現在まで）

令和 元年 文化功労者

【賞歴】

昭和51年 小学館漫画賞

平成 9年 手塚治虫文化賞・マンガ優秀賞

平成19年 日本SF大賞

平成24年 紫綬褒章

平成25年 センス・オヴ・ジェンダー賞・生涯功労賞

平成29年 朝日賞

令和 4年 アイズナー賞

令和 4年 旭日中綬章

令和 6年 アングレーム国際漫画祭 特別栄誉賞

洋楽

いま い のぶ こ
今 井 信 子



(撮影 Marco Borggreve)

推薦理由

今井信子氏のこれ迄の業績は大変幅広く、卓越したもので、彼女の活動は全世界に及んでいる。ヴィオラという楽器の認知度を高めただけでなく、国際的な評価を得られ皆から尊敬されている。しかも一人の女性音楽家として独自の道を切り拓いてきたバイタリティーは驚嘆に値する。秀でたヴィオラ奏者としての国際的な演奏活動は、独奏のみならず室内楽の分野でも素晴らしいものがある。そして教育活動！何と多くの優秀なお弟子さん達を育て上げられたことだろう。これ程の方が我が国から生まれたことに大きな誇りを感じる。

【略歴】

昭和18年3月18日 東京都生まれ 80歳
昭和58年 デトモルト音楽大学教授（平成15年まで）
平成15年 ジュネーヴ音楽院教授（同26年まで）
平成19年 クロンベルク・アカデミー教授（現在まで）
平成20年 上野学園大学特任教授（現在まで）
平成21年 東京国際ヴィオラコンクール審査委員長（同30年まで）
平成25年 アムステルダム音楽院教授（現在まで）
平成27年 ソフィア王妃高等音楽院教授（現在まで）

【賞歴】

昭和45年 西ドイツ音楽功労賞
平成 6年 芸術選奨文部大臣賞
平成 8年 サントリー音楽賞
平成 8年 毎日芸術賞
平成15年 紫綬褒章
平成25年 旭日小綬章

洋楽

の だいら いち ろう
野 平 一 郎



(撮影 M. HORI)

推薦理由

野平一郎氏は我が国屈指の作曲家であり、ピアニスト、指揮者、教育者、プロデューサー等としても優れた活動を行う万能の芸術家である。多分野でリーダーシップを発揮し、芸術文化の発展に多大な貢献をしており、その功績は国内外で高く評価されている。これからの我が国の芸術文化界を引っ張って行く人物として、まさに日本芸術院会員に相応しい方である。

【略歴】

昭和28年5月5日 東京都生まれ 70歳

平成 2年 東京藝術大学音楽学部助教授（同14年まで、同21年准教授、同22年教授、令和3年名誉教授）

平成17年 静岡音楽館AOI芸術監督（現在まで）

令和 元年 仙台国際コンクール（ピアノ部門）審査委員（同4年審査員長、現在まで）

令和 3年 東京音楽大学教授（同5年学長、現在まで）

令和 3年 モナコ・ピエール皇太子財団音楽評議員（現在まで）

令和 3年 東京文化会館音楽監督（現在まで）

【賞歴】

平成 8年 尾高賞（後1回）

平成16年 サントリー音楽賞

平成17年 芸術選奨文部科学大臣賞

平成24年 紫綬褒章

令和 元年 日本芸術院賞

令和 4年 ENEOS音楽賞 洋楽部門本賞

舞踊

お の え ぼ く せ つ
尾 上 墨 雪

(本名 は と り の り お
羽鳥 紀雄)



推薦理由

尾上墨雪氏は、初代尾上菊之丞及び、六世藤間勘十郎のもとで古典を修得。歌舞伎や文楽、演劇の現場にて演出振付指導をし、多くの人材を育てた。又、日本舞踊家として伝統と革新の両輪をモットーに熟成を重ね、日本の風土、気質、美意識を生きた人間を通して表現する日本舞踊の進化発展に心血を注いでいる。殊にその創作作品は、深く大胆で斬新且つ骨太である。又、広く日本の芸能を言語化し表現できる方であり、舞台芸術一般に寄与する活動が今後も期待できる。当代菊之丞、紫という優れた表現者が後に続いていることも特筆すべきである。

【略歴】

昭和18年4月6日 東京都生まれ 80歳

昭和27年 初代尾上菊之丞に師事

昭和39年 六世藤間勘十郎に師事

昭和39年 二世尾上菊之丞襲名、尾上流三世家元継承

昭和58年 (社)日本舞踊協会理事 (平成23年常任理事兼務、令和3年名誉顧問 ※現公益社団法人)

平成13年 共立女子大学文芸学部舞踊学講師 (非常勤、同25年まで)

平成19年 (公社)日本芸能実演家団体協議会理事 (現在まで)

平成21年 (独)日本芸術文化振興会評議員 (令和元年まで)

平成23年 尾上墨雪に改名

令和5年 重要無形文化財「日本舞踊」(総合認定)保持者

【賞歴】

平成2年 松尾芸能賞優秀賞

平成14年 日本芸術院賞

平成30年 旭日小綬章

舞踊

て し が わら さぶ ろう
勅使川原三郎
(本名 てしがわら つねやす
勅使川原 常恭)



(撮影 阿部 章仁)

推薦理由

勅使川原三郎氏は空間を質的に変化させる独創的な身体表現で海外デビュー、以後世界に衝撃を与え続けている。諸外国の主要なフェスティバルから招聘され公演。又、世界の著名なカンパニーからの振付依頼も多数。新国立劇場主催公演でも長年にわたり「ガラスの牙」など新作を多数発表。平成19年芸術選奨文部科学大臣賞、平成29年フランス芸術文化勲章オフィシエ、令和4年文化功労者に選出、令和4年ヴェネツィア・ビエンナーレ・ダンツァ金獅子功労賞などを受賞。舞台芸術の発展に寄与する芸術家である。

【略歴】

昭和28年9月15日 東京都生まれ 70歳

昭和60年 宮田佳と共にダンスカンパニー、KARASを設立

平成18年 立教大学現代心理学部映像身体学科教授 (同24年特任教授、同26年まで)

平成25年 東京・荻窪に活動拠点カラス アパラタス (劇場・ギャラリー) を設立

平成26年 多摩美術大学美術学部演劇舞踊デザイン学科教授 (令和3年客員教授、現在まで)

平成31年 愛知県芸術劇場アドバイザー (令和2年まで)

令和2年 愛知県芸術劇場芸術監督 (現在まで)

令和4年 文化功労者

【賞歴】

昭和61年 バニョレ国際振付コンクール準優勝及びアメリカンセンター特別賞

平成19年 芸術選奨文部科学大臣賞

平成21年 紫綬褒章

平成29年 フランス芸術文化勲章オフィシエ

令和4年 ヴェネツィア・ビエンナーレ・ダンツァ金獅子功労賞

舞踊

みやぎのうほう
宮城能鳳
(本名 とくむらまさきち
徳村 正吉)



推薦理由

ユネスコの無形文化遺産になっている「組踊」は、琉球王国時代に創始された音楽舞踊劇である。宮城能鳳氏はその立方として、又、琉球古典舞踊家として、沖縄の古典芸能界を牽引する存在である。昭和13年に沖縄で生まれた氏は幼少より琉球古典舞踊の手ほどきを受け、昭和36年から宮城能造に師事して本格的に専門家の道を歩み始めた。戦禍を乗り越え、古典はもとより、廃絶曲の復曲、新作の創作に積極的に取り組み、自らの芸域を広げるとともに、沖縄県立芸術大学や国立劇場おきなわの組踊養成研修で後進の指導にあたり、数多の専門家を育成している。

【略歴】

昭和13年7月30日 沖縄県生まれ 85歳
昭和36年 宮城流流祖・宮城能造に師事
昭和61年 重要無形文化財「組踊」（総合認定）保持者
平成2年 沖縄県立芸術大学音楽学部教授（同16年客員教授、同18年名誉教授）
平成8年 沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」保持者
平成17年 沖縄県芸能関連協議会常務理事（令和3年理事、現在まで ※現一般社団法人）
平成18年 重要無形文化財「組踊立方」（各個認定）保持者
平成21年 重要無形文化財「琉球舞踊」（総合認定）保持者
平成21年 琉球舞踊保存会理事（同27年会長、令和5年相談役、現在まで）
令和元年 文化功労者

【賞歴】

平成20年 旭日小綬章
令和元年 日本芸術院賞

舞踊



(撮影 Tamaki Yoshida)

よし だ みやこ
吉 田 都
(本名 えんどう みやこ
遠藤 都)

推薦理由

吉田都氏はバレエ界を代表するプリマバレリーナのひとりとして英国の二つのロイヤルバレエ団に22年間にわたり在籍し、「ロミオとジュリエット」、「白鳥の湖」をはじめ多くの演目に主演、優れた芸術性、表現力などで世界的に評価、平成19年大英帝国勲章 OBE を受章。又、日本でも多くのステージ、テレビドキュメンタリー等にゲスト出演し絶大な人気を得てきた。令和2年新国立劇場舞踊芸術監督に就任し成果を上げている。平成19年紫綬褒章、平成29年文化功労者など榮譽を受け、今後の芸術発展に大いに貢献することが期待されている。

【略歴】

昭和59年 サドラーズウェルズ・ロイヤルバレエ団（現バーミンガム・ロイヤルバレエ団）に入団
平成5年 ローザンヌ国際バレエコンクール審査員（後3回）
平成7年 英国ロイヤルバレエ団にプリンシパルとして移籍（同22年まで）
平成29年 文化功労者
令和2年 新国立劇場舞踊芸術監督（現在まで）

【賞歴】

昭和58年 ローザンヌ国際バレエコンクール ローザンヌ賞
平成13年 芸術選奨文部科学大臣賞
平成18年 英国最優秀女性ダンサー賞
平成19年 紫綬褒章
平成19年 大英帝国勲章 OBE
令和元年 菊池寛賞

演劇

かし やま ふみ え
榎 山 文 枝
(本名 わたびき ふみえ
綿引 文枝)



推薦理由

「アンネの日記」(昭和39年)での初舞台以来、劇団民藝に所属し、現在まで舞台俳優として歩み続け、新劇を中心に演劇界に確かな足跡を残している。創作劇では「静かな落日 - 広津家三代 -」(吉永仁郎脚本)の広津桃子で父の和郎への反発から尊敬へと変わっていく心情を細やかに、「集金旅行」(井伏鱒二原作、吉永仁郎脚本)では慰謝料取りたてに昔の恋人を訪ねる七番さんをユーモラスに演じた。令和5年も翻訳劇「ローズのジレンマ」(ニール・サイモン作)に主演。パートナーを亡くした作家ローズの再生を柔軟な演技で見せた。

【略歴】

昭和16年8月13日 東京都生まれ 82歳

昭和35年 東京文化高等学校(現・新渡戸文化高等学校)卒業

昭和38年 劇団民藝入団

【賞歴】

昭和42年 ゴールデン・アロー賞 特別賞

昭和42年 ラジオ・テレビ記者会賞 個人賞

昭和48年 文化庁芸術祭 優秀賞

平成21年 紀伊國屋演劇賞 個人賞

日本芸術院について

1. 設置目的

日本芸術院は、美術、文芸、音楽、演劇、舞踊等芸術各分野の優れた芸術家を優遇するために設けられた栄誉機関として設置。

2. 設置根拠及び沿革

(1) 文部科学省設置法第32条、日本芸術院令

(2) 大正8年、帝国美術院として発足。

昭和12年、文芸、芸能の2部門を加え帝国芸術院に改組、拡充。

昭和22年、日本芸術院に名称変更し、現在に至っている。

3. 組織

日本芸術院は、院長1名と会員（終身）120名以内で構成され、会則により3部18分科に分かれ所属し、本院の設置目的を達するため必要な事業を行う。

院長は、芸術に関し卓越した識見を有する者について、会員の選挙によって選ばれ文部科学大臣により任命される。

会員は、芸術上の功績顕著な芸術家について、会員からなる部会の推薦（部会における選挙）と総会の承認によって選ばれ、文部科学大臣により任命される。

(令和6年2月9日現在)

院長 野村 萬	第一部（美術）……………現員 46名 部長 奥田 小由女
	第二部（文芸）……………現員 26名 部長 辻原 登
	第三部（音楽、演劇、舞踊）…現員 25名 部長 堤 剛
	事務長————— 庶務係
〔定員 計 120名（現員97名）〕	

4. 主な事業

① 芸術の発達に寄与する活動を行うとともに、芸術に関する重要事項を審議し、これに関し文部科学大臣又は文化庁長官に意見を述べることができる。

② 会員以外の者で、卓越した芸術作品と認められるものを制作した者及び芸術の進歩に貢献する顕著な業績があると認められる者に対して、毎年、恩賜賞と日本芸術院賞を授与している。

③ 前記の他、所蔵作品の公開展示（無料）、日本芸術院賞受賞作品展（無料）、会員による講演会等の開催（無料）、日本芸術院会員記録の制作、日本芸術院の活動記録作製等を行っている。

5. 予算額

令和6年度予算案額 518百万円（うち会員年金303百万円）

令和5年度 528百万円（うち会員年金303百万円）